



中国会計税務実務

2020年第35号

今回のテーマ：中国本土の資本市場制度について

中国経済の目覚ましい発展に伴い、外商投資企業を発行体とする IPO（新規上場）のニーズが高まっている。しかしながら近年において、外商投資企業を発行体とする IPO の成功事例は依然として少ない状況にある。今回は、そのような成功事例を説明するまえに、まずは中国本土の資本市場制度について簡単に説明していく。

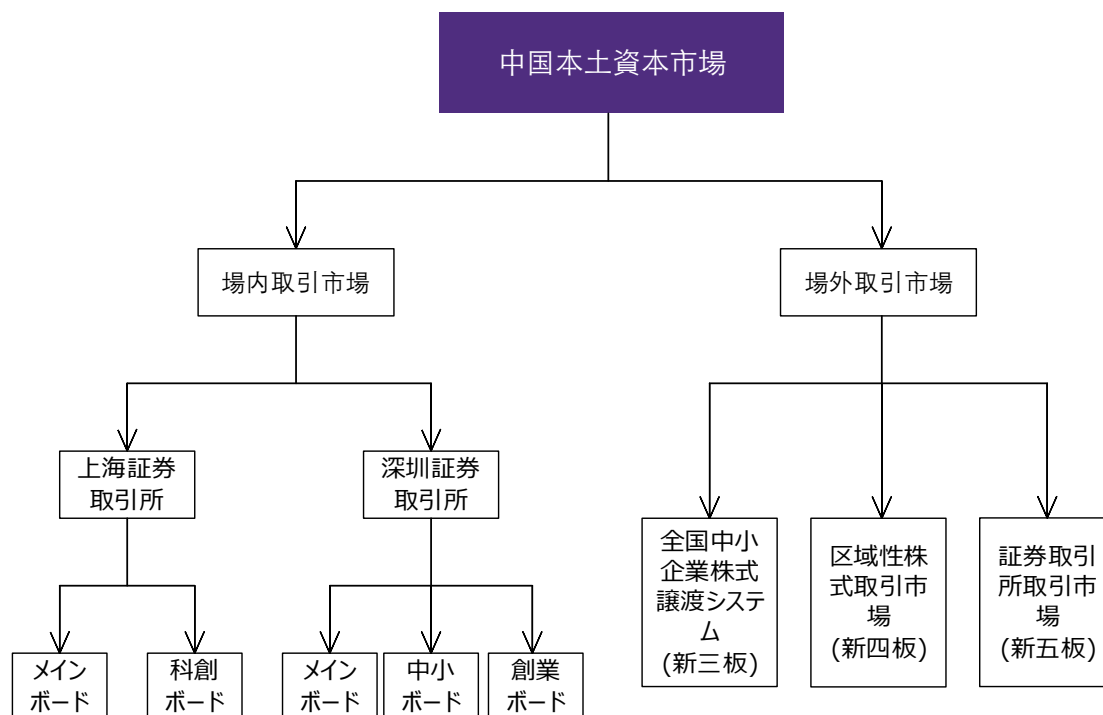
主な内容：

数年間の発展を経て、中国は場内取引市場（上海証券取引所、深圳証券取引所）と場外取引市場（店頭取引）の二つからなるマルチレベルの資本市場を当初からに設立している。場内市場はメインボード、科創ボード、中小ボード、創業ボードからなる。一方、場外市場は全国中小企業株式譲渡システム（新三板）、区域性株式取引市場（新四板）、証券取引所取引市場（エンジェル投資、ベンチャー投資、株式投資などの株式投資市場が含まれる）（新五板）からなる。これらはそれぞれの市場ごとに重要な役割を果たしている。現在の多段階資本市場は企業の様々な発展段階における多様な資金調達ニーズを満たすことが可能となっている。

上海証券取引所は中国における最大の証券取引所である。1990年12月に開業以来、30年の急成長を経て、株式、債券、ファンド、デリバティブの四種類の証券取引方法を備え、完全な市場構造を持つ証券取引所となっている。上海証券取引所は、メインボードと科創ボード（科学技術革新ボード）に分けられる。

深圳証券取引所は1990年12月に開業した、中国大陸第二の証券取引所である。深圳証券取引所は、メインボード、中小ボード、創業ボード3種類に分けられる。

中国本土の資本市場の構造は以下の通りである。



2020年10月9日における上場会社数等の集計データ

株式市場	株式の種類	上場会社数	時価総額 (億元)	上場企業の特徴
上海証券取引所	メインボード	1,563	391380.90	大手企業
	科創ボード	183	29758.10	ハイテク新興企業
深圳証券取引所	メインボード	469	88300.01	大手企業
	中小ボード	976	130438.31	中小企業
	創業ボード	865	98745.46	技術革新型のベンチャー企業

出所：証券取引所公式サイト

お見逃しなく：

メインボード：中央企業、大型ブルーチップ（ブルーチップ(Blue Chips)とは、長期的に安定して成長している大型企業、伝統的な産業及び金融企業の優良株を指す。）の上場が優先される。

中小ボード：メインボードの上場要件を満たしていないものの、安定している中小企業を中心となっている。

科創ボード：成熟した開発段階に入っていないものの、成長の可能性がある程度見込まれる、技術をベースにした革新的な中小企業を対象としている。

創業ボード、新三板、区域性株式取引市場：創業間もない高成長企業、革新型企業、科学技術企業に対しエクイティ・ファイナンス、資産評価、株式取引など、中小企業に対し様々なサービスを提供している。

財産権取引所：国有企業の財産権譲渡（株式を含む）の際に広く適用される

以上



致同（GT 中国）は、中国国内において日系企業向けの専門サービス部門として、GT 日本と共同で日本デスクを展開しています。日中共同の日本デスクとして、現地の日系企業様の立場に立ってサービスを提供してまいります。

お問い合わせ: Japan@cn.gt.com